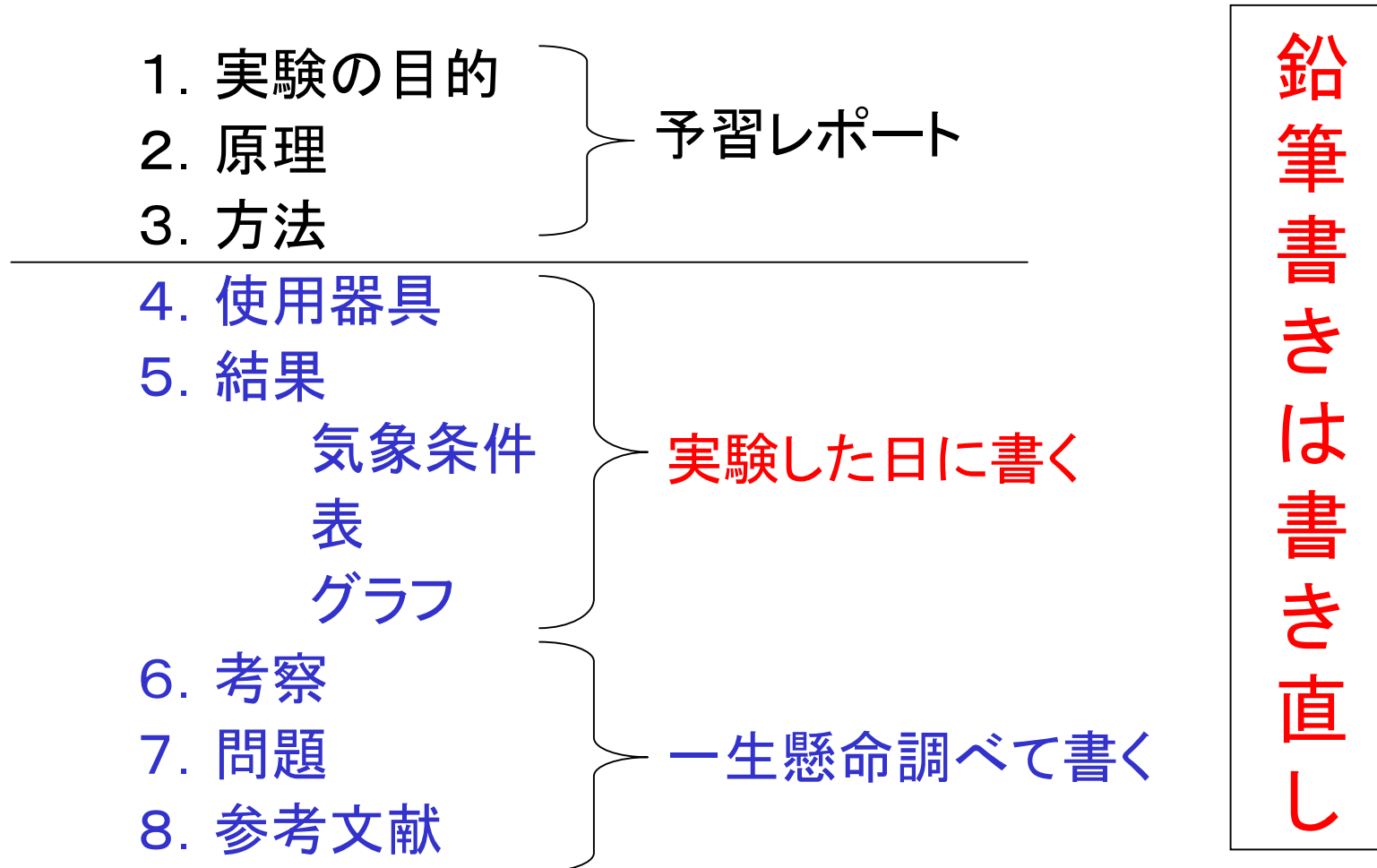


# 実験レポートの書き方



## 4. 使用器具

表題は表の上に書く  
表番号を忘れずに

表1. 使用器具

| 名称・型式             | 定格           | 仕様                                                                                                            | 製造所名                        | 製造番号       |
|-------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|------------|
| 低周波発信器<br>GAG-810 | 1MHz         |                                                                                                               | GW                          | EF832762   |
| 交流電流計<br>TYPE2013 | 2.5A         | 可動鉄片形 <br>class0.5<br>水平置き | YEW                         | No.M2H1106 |
| コンデンサ<br>CS-0.01  | 0.01 $\mu$ F |                                                                                                               | YOKOGAWA<br>Hewlett-Packard | 1250J00444 |

型式(かたしき): 機器のモデル

定格: 設計時に保証される  
機器の使用限度

電流計, 電圧計の動作原理は記号も示す

## 5. 結果

気象条件

天気 晴れ, 気温 17°C, 湿度 56%, 気圧 1003hPa

表題は表の上に書く  
表番号を忘れずに

表2 直列共振特性

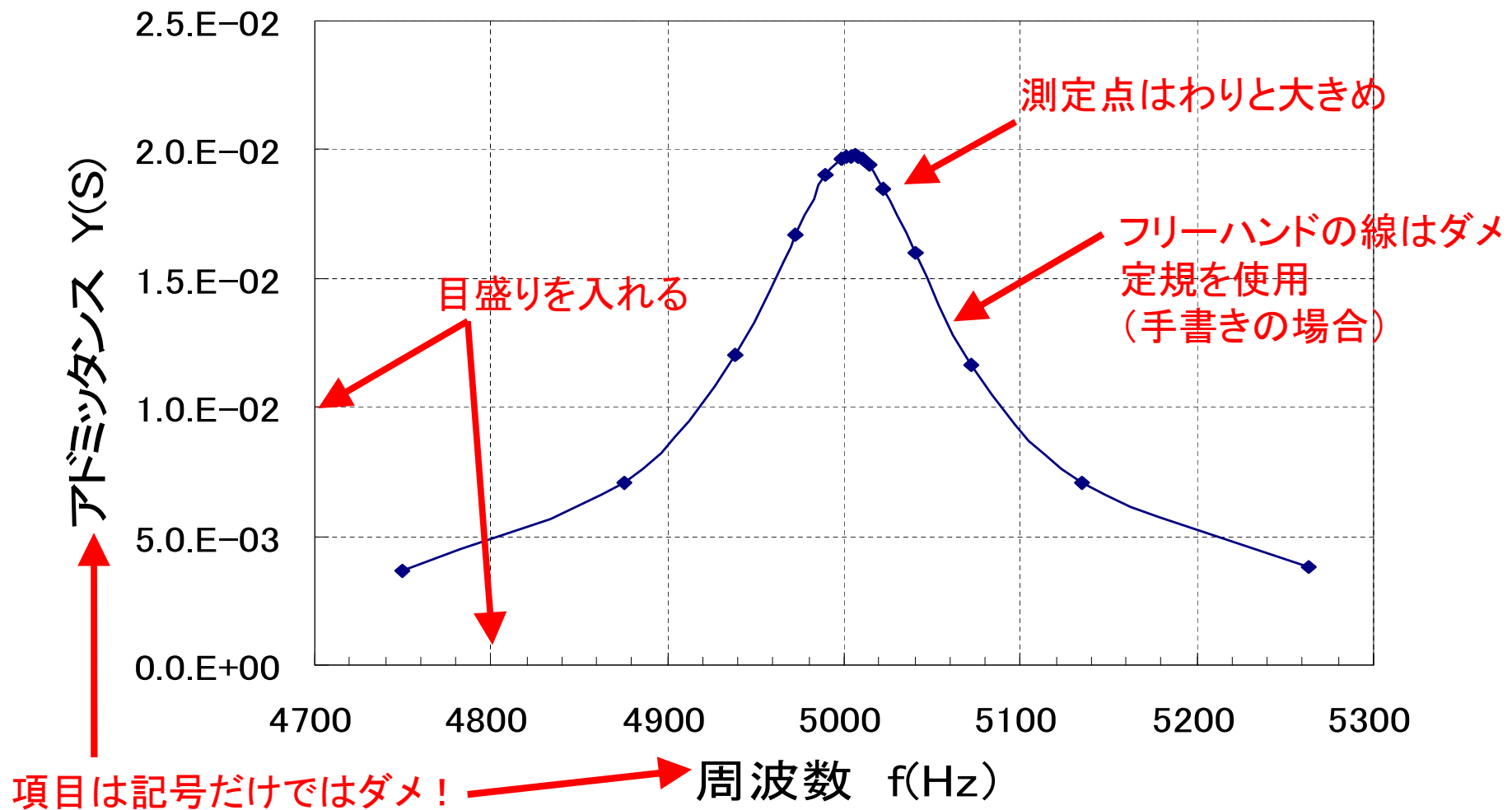
コイルのインダクタンス $L=100\text{mH}$ , コンデンサのキャパシタンス $C=0.01\mu\text{F}$   
直列抵抗 $R=1000\Omega$

| 周波数<br>$f(\text{Hz})$ | 電子電圧計の読み        |                 | アドミッタンス<br>$Y(\text{S})$ |
|-----------------------|-----------------|-----------------|--------------------------|
|                       | $V_a(\text{V})$ | $V_b(\text{V})$ |                          |
| 5263                  | 3.850           | 14.69           | 3.816E-3                 |
| 5135                  | 2.097           | 14.89           | 7.101E-3                 |
| 5072                  | 1.271           | 14.85           | 1.168E-2                 |

項目は記号だけ(f)ではダメ! → 周波数 $f(\text{Hz})$

単位を忘れないこと

グラフは図として扱う(A4用紙1枚に1つのグラフを書く)



単位を忘れないこと

図7. 直列LCR共振回路特性

日本電子工業会 電気電子工学科  
基礎実験室  
題目は図の下に書く 図番号を忘れない

## 6. 考察

直列LCR回路及び並列LCR共振回路の特性を測定し、共振特性の評価、Q値及びコイルの抵抗を算出した。

本回路の共振周波数の計算値は、直列、並列回路共に5033Hzである。しかしながら、測定結果は……。この違いは、……の定理[1]によれば……

文献引用

- 考察はレポートで一番重要な部分、結果を述べるだけはダメ
- 得られた結果はなぜこうなったのか？  
報告されている値との比較、計算結果との比較、調べた本(文献)の内容から、自分の考え(解釈)をまとめる。
  - 根拠のない考察はダメ
  - 図書館へ行って勉強する
- 友人と議論するのはよいが、考察が同じになることはありえない自分の考え、自分の文章で書くこと

## 7. 問題解答

一般の電圧計，例えば電流力計形，熱電計，整流計などの計器では，電子電圧計に比べて入力インピーダンスが低く，今回の実験のように高いインピーダンスのもとでの電圧測定に使用したとき，電圧計に流れる電流によって測定値に誤差が生じる。このため，測定共振周波数に誤差を生じさせる。[2], [3]



文献引用

どこで使用したかを文章内(結果, 考察, 問題解答)に文献番号で示す

## 8. 参考文献

参考文献番号はレポート  
内で使用した順番

[1]大谷隆, 雨谷昭弘, 藤田一郎, 電気回路, 昭晃堂, pp. 91~97, 1989年5月12日.

[2]山本滋, 松塚勇, 長澤幸二, 回路の諸定理と例解, コロナ社, pp. 124~125, 1992年1月20日.

[3] <http://www7.plala.or.jp/stokida/l2h/kouryuue/node10.html>

インターネットで調べたときは, URLを書く

順番は

[引用番号]著者, 本の名前, 発行所名(出版社), 引用ページ, 発行年月日.

参考文献がない事はありません。インターネット, 図書館  
を利用し, 調査し, レポートを完成させること

# 読み手に好印象を与えるために

- ていねいに書く
- フリーハンドで図は書かない
- 文章は書いたら読み直す(読んで理解できるか?)
  - 主語と述語があっているか?
  - 長い文章はダメ
  - 説明に過不足はないか?
- とじる前に順番は大丈夫かをチェックする
  - 使用器具→結果(気象条件, 表(データ), グラフ)→考察→
  - 問題解答→参考文献

# 表の書き方注意

#### 4. 使用器具

表1. 使用器具

|  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

## 5. 結果

气象条件

天気 晴れ, 気温 17°C, 気圧1003hPa

表2. 直列共振特性

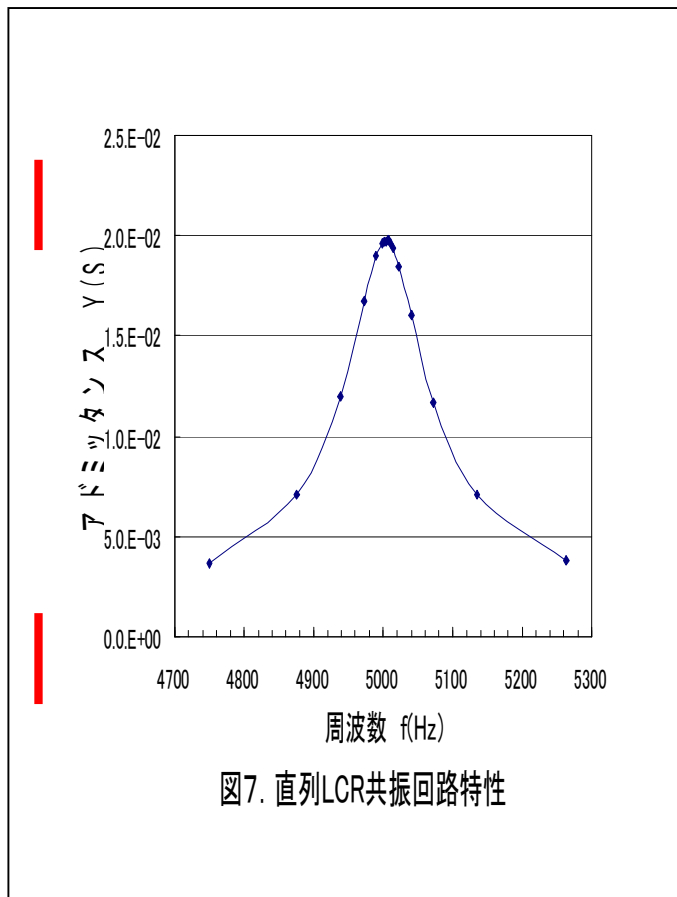
コイルのインダクタンス.....

[illegible]

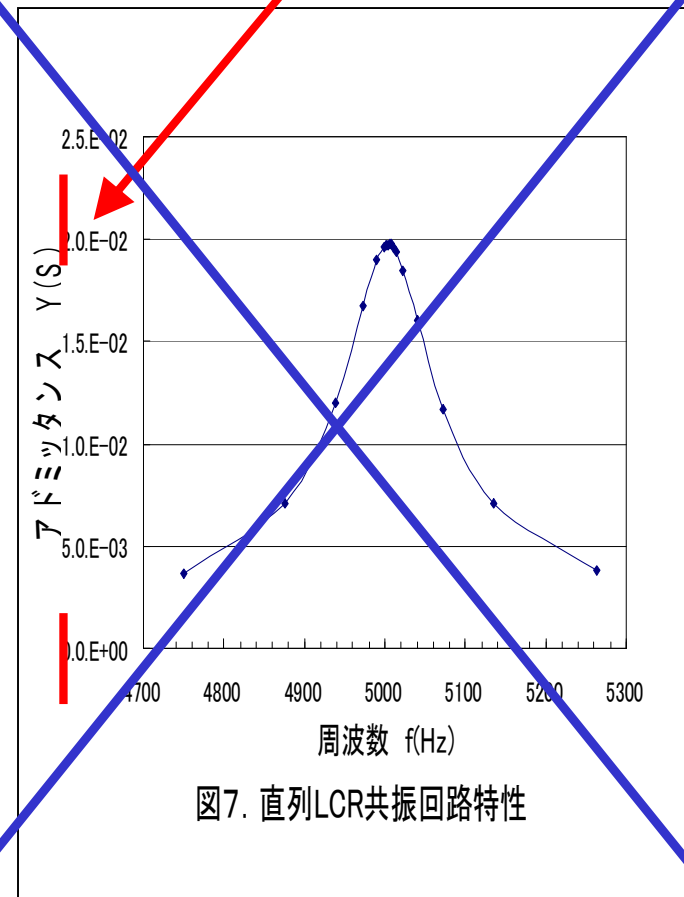
2ページにまたがった表は作らない  
1ページに入りきらない場合、余白  
にする

# グラフの大きさ

縦にも見えるように



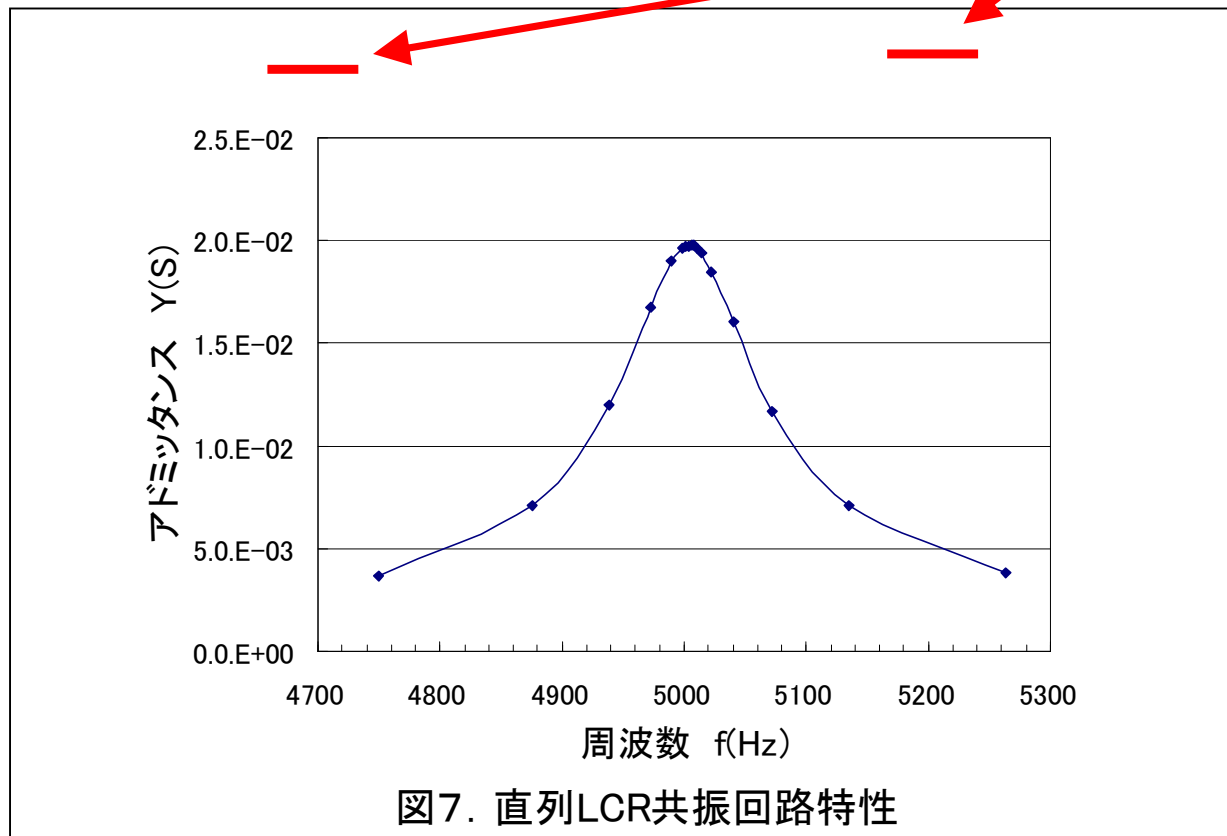
見えない！



# グラフの綴じ方（横書きの場合）

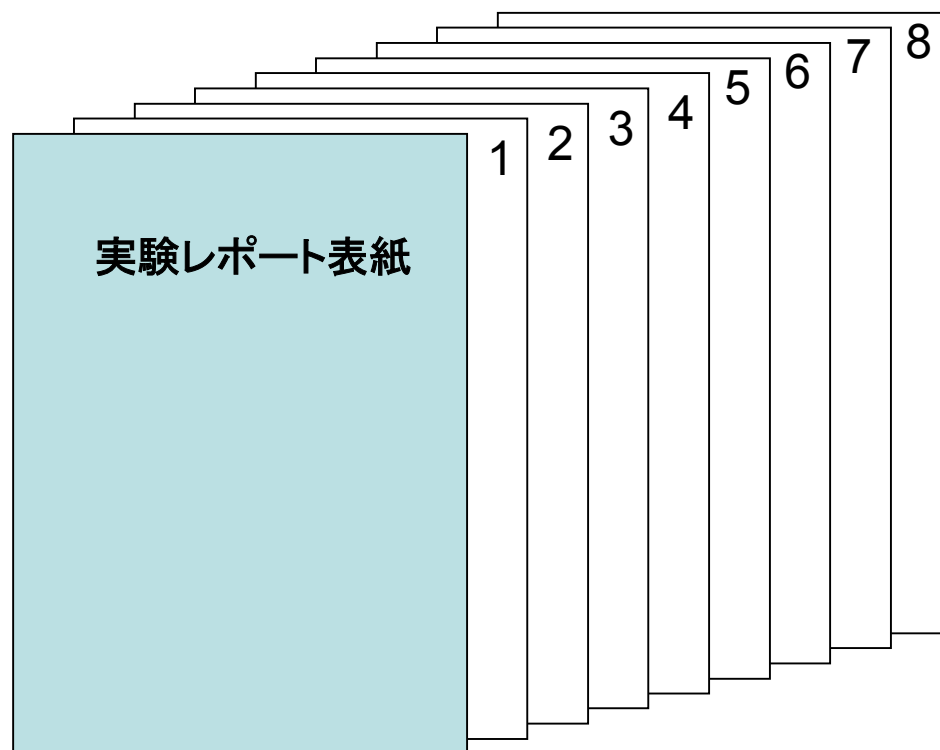
グラフの上を綴じる

ホッチキスの位置



# ページ番号

レポート右上にページ番号を入れる



# 再提出レポート

ページ番号  
(通しで入れる)

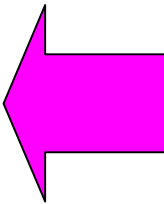
返却レポートは**そのまま**  
**手を加えない**

指摘箇所について新たに  
書いたレポート

9

実験レポート表紙

再提出



返されたレポートの後ろに  
**追加**してホッチキスで綴じる

ホッチキスは取り外して、新たに綴じる

1: 本レポート

2: 再提出レポート

※考察・問題解答にコピーが  
あった場合、大きな減点にする